

南波宗次郎

なんば・そうじろう

医学士、誠之館校医

経歴

生:明治9年(1876年)12月27日、福山・鍛冶屋町生まれ

没:昭和12年(1937年)4月2日病没、享年62歳

| | | |
|-------------------------------|------------|--------------------|
| 明治27年(1894年) | 17歳 | 尋常中学福山誠之館卒業 |
| 明治29年(1896年)9月 | 19歳 | 山口高等学校入学 |
| — | — | 山口高等学校卒業 |
| 明治32年(1899年)9月 | 22歳 | 東京帝国大学医学科医学部入学 |
| 明治37年(1904年)3月 | 27歳 | 東京帝国大学医学科医学部卒業 |
| 明治37年(1904年)3月 | 27歳 | 東京帝国大学医学科医学部助手 |
| — | — | 高楠博士指導薬物学研究 |
| — | — | 文部省医師開業試験委員 |
| — | — | 慈恵会医学校講師 |
| 明治40年(1907年)7月 | 30歳 | 帰郷し開業 |
| 明治40年(1907年)～ 昭和12年(1937年) | 30～ 60歳 | 福山中学校(誠之館)校医 |
| 明治40年(1907年) | 30歳 | 福山伝染病病院院長 |
| 大正9年(1920年)～ 昭和12年(1937年) | 43～ 61歳 | 福山市医師会会長(初代) |
| 大正9年(1920年) | 43歳 | 附属産婆看護婦学校の創設 |
| 昭和3年(1928年) | 52歳 | 東堀端町(現城見町)に医師会館を新築 |
| — | — | 市衛生会連合会会長 |

生い立ちと学業、業績

福山に生れ、年少にして医術を以て身を立てんと志し、尋常中学福山誠之館、山口高を経て東京帝大医科大学に学び、明治37年(1904年)優秀の成績を以て卒業。

直ちに文部省医師開業試験委員に抜擢せられ、同大学助手、慈恵会医学校講師となり、一意斯学の研鑽を積み、明治40年(1907年)辞任して帰郷、福山に開業した。

同時に広島県立福山中学校(誠之館)校医、福山伝染病院長を兼ね、推されて福山医師会長を重任し、25年もの長期にわたってその役割を果たした。その間附属産婆看護婦学校の創設、医師会館の新築等に尽力し、市衛生会連合会が成立するや会長に推され、衛生施設の改善に貢献するなど、市民からの信望を一身にあつめた。

昭和12年(1937年)病歿、享年62歳。福山医師会葬で葬られる。

宗次郎氏に子はなく、南波晋氏は中野家より養子として迎えられた。(出典1)

出典1:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、15頁、村田露月・式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典2:『穆翁傘寿録「往時縹渺」』、294頁、岩崎博著、鶴庵文庫刊、2007年12月1日

2004年10月29日更新:経歴●2005年4月14日更新:経歴・本文●2006年4月28日更新:タイトル●2007年7月19日更新:経歴●2007年8月21日更新:関連情報●2007年12月25日更新:経歴・関連情報・出典●2008年2月20日更新:本文・関連情報削除●